巻頭言

看護学研究の活性化

看護学科長　**大山　建司**

山梨大学看護学会誌が刊行されて4年目になります。2002年の1巻1号から3巻2号まで6編の学会誌を見てみると，総説7編，原著論文9編，実践報告11編，資料16編，活動報告10編となっています。2巻1，2号には原著論文はなく，看護学科教官が第一著者の原著論文は全体でわずかに1編です。山梨大学看護学会誌を今後充実させ，発展させていくためには誰が何をせねばならないかは，この結果を見れば明らかと思います。

看護学研究を発展させるためには，まず自らが目指していく専門性を明らかにし，その中で様々な研究方法を駆使して，精度を高め，研究を深めていく態度が大切です。研究の幅を広げていくためには，まず専門分野の研究を深めていくことが必要条件となるからです。看護学の研究分野は，教育学，心理学，保健学，医学，薬学，栄養学など様々な分野とオーバーラップしており，広くとらえれば，これら関連分野をも包含した学問ともいえます。研究の質は当然それら関連分野の研究レベルに匹敵するものでなければなりません。看護学を狭い視野でとらえ，看護学の独自性に固執しすぎることは，その発展に大きな障碍となると考えます。若い研究者には他の研究分野に飛び込んで行き，その考え方，研究技術を吸収し，看護研究に応用する積極性が必要です。欧米の論文を散見すれば，看護研究は狭い看護の枠を越えており，医学的・薬理学的研究分野などにおいても質の高い研究を報告しています。

研究とは，よく調べ考えて真理をきわめることである（広辞苑）。一面的な見方では真理を追及するのはなかなか困難です。看護学科では，本年5月に有志が集まって「山梨の生活と健康の指針に関する研究会」を発足させ，領域を越えた研究を始めようとしています。第一段階としては，このような研究会の中で専門性を深めていくことも看護研究の活性化につながると考えています。今後，学会誌の発展のために，質の高い原著論文が増加することを期待しています。